

**2020 年度 織田ファッション専門学校
学校関係者評価報告書
(令和 2 年度)**

評価対象期間

2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日

**織田ファッション専門学校
学校関係者評価委員会**

1. はじめに

2020年(令和2年)4月1日～3月31日を評価対象期間とした自己点検評価報告を元とした織田ファッション専門学校学校関係者評価委員会を開催いたしましたので、ここに報告いたします。

本校が社会およびファッション業界に対して高い価値を提供すべく、より良い教育を目指すため、委員の皆様にご評価とご意見をお伺いいたしました。学校関係者評価の結果を踏まえ、学校運営の更なる改善と教育の質向上に努めて参ります。

開催日：2021年8月31日(火) 15:00-16:30

会場：織田学園第8校舎 理事長室

2. 学校関係者評価委員(敬称略)

氏名	所属	役職等	種別
辻 庸介	株式会社 辻洋裁店	取締役会長	企業等委員
鶴見 千寿子	COASTER	パタンナー	企業等委員、卒業生
松野 仁美	フリーランス	スタイリスト	卒業生

3. 自己評価に対する学校関係者評価委員の評価方法

学校より自己評価の各項目について関連資料を交えて報告と説明を行い、自己評価の評価点(適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切・未実施…1)が適切か適切でないかを学校関係者評価委員3名よりそれぞれ評価をいただいた。

4. 自己評価に基づく学校関係者評価

【1. 教育理念・目標・育成人材像】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
理念・目標・育成人材像は、定められているか。	4	適切 3名
学校における職業教育の特色が明確になっているか。	4	
各学科の教育目標・育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか。	4	
学校の教育理念に沿った①アドミッションポリシー ②カリキュラムポリシー ③ディプロマポリシーを設定または改訂できたか。	3	

<ご意見・評価等>

○学校のホームページ、パンフレットで各科の特色が明確になっている。

○理念、目標、育成人材像について、外部の講師の先生方からも業界ニーズを伺いながら、

時代に沿ったものが設定されており、適切である。

【2. 学校運営】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
教育理念・目標に沿った運営方針が策定されているか。	4	適切 3名
外部関係者の評価（教育課程編成委員会）を有効に活用できたか。	4	
現場経験のある教員やファッション業界で活躍中の卒業生の活用は促進できたか。	4	
外部企業等に強い外部講師等は有効に活用できたか。	4	
学生のニーズは把握できたか。	4	
情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	4	

<ご意見・評価等>

○教育課程編成委員会が実施されていて、外部の業界関係者から意見を取り入れ、カリキュラムに反映されており、外部評価が有効に活用されている。

○卒業生から在校生への学生時代のことや最近の状況など話してもらう機会が設けられており、活躍している卒業生が活用されている。

○学生アンケートが実施されており、学生ニーズ把握に努めている。

【3. 教育活動】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか。	4	適切 3名
教育カリキュラムは体系的に編成されているか。	4	
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立って、カリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4	
実践的な職業教育（産学連携教育、インターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか。	4	
授業評価を実施し、その評価体制はあるか。	4	
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。	4	
教員の研修・自己啓発は促進できたか。	4	

<ご意見・評価等>

○インスタグラマーを講師に迎えるなど時代に合わせたカリキュラム作りをされている。

○コロナ禍ではあったが、企業実習など行われており実践的な職業教育の視点に立って、カリキュラムが作成されている。

○成績評価・単位認定の基準も明確に定められており、連携企業からの評価結果も踏まえ

て、成績評価が行えている。

○教員の質向上のため、専攻分野に関する研修を積極的に受講されている。

【4. 学修成果】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
生活支援の充実化は図れたか。	4	適切 3名
教育支援の充実化は図れたか。	4	
就職支援の充実化は図れたか。	3	

<ご意見・評価等>

○公的奨学金制度について学生に案内を行い適切に活用されている。学校独自の特待生制度も設定されており、生活支援が行われている。

○iPad を学生に配布し、授業で取り入れるなどデジタル化を促進しているのは大変よい取り組みだと思う。

○就職難の現状においては職域を広げて就職活動をすることも必要だと思うが、それでは専門学校の価値がなくなってしまうのではないか。

○コロナ禍もあり、アパレル業界における就職は厳しい状況が続くと思う。学生のモチベーションを維持し、就職支援を続けてほしい。

【5. 学生支援】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
退学率の客観的数値(前年度比較)は改善したか。	3	適切 3名
心理検査(ハイパーQU)から得られた情報は適切に活用できたか。	4	
学生のメンタルヘルス対応は積極的に取り組めたか。	4	
卒業生への支援体制はあるか。	4	
学生情報の教職員間での共有は効果的に行えたか。	4	
保護者との連携は適切だったか。	4	

<ご意見・評価等>

○保護者との連絡を取り、学生一人ひとりに対して丁寧に対応している。メンタルに関する問題を抱えている学生は今後も増えていくと思うが、今後そういった学生に対してどのように対応し退学率を抑えていくか、考えていく必要がある。

○変革の時の中で、時代が変わっていることをどう考えるかということが大きな課題になってくると思う。

○学生たちが受動的にならないように、自分で考えて、真剣に取り込むことができるよう意識させる必要があると思う。

【6. 教育環境】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
卒業生・在校生・学校間のネットワーク構築への取り組みについて進捗・改善は見られたか。	3	適切 3名
施設・設備は、教育の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	4	

<ご意見・評価等>

○キャリアマップは卒業生の立場からするとわざわざこのページを見ることはあまりないと思う。インターンを募集している情報などをリスト化して在校生に対して発信するなど、在校生向けに強化をしたほうがいいのではないか。

○卒業生など協力してくれる方はたくさんいると思うので、卒業生情報などをキャリアマップに載せるなどしたほうが良いと思う。

○Wi-Fi 整備など、適切に環境整備が行われている。

【7. 学生の受け入れ募集】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
数値目標(入学生数 80 名)は達成できたか。	3	適切 3名
OC 参加者の増加は達成できたか。	3	
OC からの取り込み率は向上できたか。	4	
学生募集における学校の訴求ポイントについて広報と協議の上で決められたか。	4	
広報物の訴求の一貫性を図れたか。	4	
広報物の制作にあたり、学校と広報とで意見交換が図られたか。	4	
広報担当スタッフとの連携を強化できたか。	4	
OC 時の参加者対応スキルの向上は図れたか。	4	
OC の結果等の分析や、コース内容のブラッシュアップ等について学校と広報とで十分な意見交換ができたか。	4	
SNS 等、学校の認知 PR は適切に行えたか。	4	

<ご意見・評価等>

○地方の学生は東京まで行き教育費を払い続けることが困難なことが多い。少子化も合わせ学生数減少の中で、いかにオープンキャンパスに来た学生を取り込むかが重要だと思う。

○学生用のシェアハウスを持っているのは、地方学生取り込みには強みだと思う。

○オープンキャンパスでは在校生の存在が非常に影響を与えるため、在校生に学校の良いところを積極的に伝えてもらえるように在校生の満足度も高めていく必要があると思う。

○質疑応答等は聞きづらい高校生もいると思うので、個別に質問ができる時間や質問がしやすい雰囲気、高校生から話しかけやすいようにすることが大切だと思う。

【8. 財務】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
経営感覚の教職員間での共有は図れたか。	3	適切
財務改善への取り組みは推進できたか。	4	3名

<ご意見・評価等>

- 財務情報は適切に公開されている。
- 監事による監査も適切に受けられており、問題ない。

【9. 法令等の遵守】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
コンプライアンス意識を再確認できたか。	3	適切
自己評価の結果を公開しているか	4	3名

<ご意見・評価等>

- 自己評価、学校関係者評価報告書ともに適切に実施・公表しており問題ない。

【10. 社会貢献・地域貢献】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
地域や地方公共団体と連携し、受託等を積極的に実施しているか。	3	適切 3名

<ご意見・評価等>

○学園祭が中止となったり、各イベントが中止となると学生のモチベーションがかなり下がる。自分の作品を誰かに見てもらうことは、学生自身にとって非常に大切なことなので、地域と協力して作品を見てもらう展示企画などイベントの代わりになることをぜひしてほしい。

【11. 国際交流】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
留学生受入れ、学習・生活指導等について適切な体制が整備されているか。	4	適切 3名

<ご意見・評価等>

- 留学生担当職員も設置しており日本語講座実施など一人ひとり丁寧で適切に対応されている。
- 今後も今いる学生とこれから入ってくる学生を大事にしてください。

5. 総評

服飾専門課程（ファッションテクニカル科、ファッションデザイン科）では、実際のお客様を相手にしたパターンオーダーを企業と連携して行うなど、実践的な職業教育カリキュラムが編成されている。即戦力となる人材育成という目標に対しても最新の3D CADを導入し、操作を学ぶ授業もあり、時代に沿った目標設定と教育環境整備がされている。

ファッションビジネス科では、作品発表会をリモートで行ったり、iPadを学生に配布しスタイル画の授業で使用していたり、WEB SHOP企画など、業界ニーズを意識したカリキュラム編成が行われている。

スタイリスト科では、実際に市販されている雑誌の見開きページ制作企画を企業と連携して行っており、目標に設定されているファッション業界で活躍する人材育成に向けて、将来を意識したより実践的な職業教育を行っている。

学校側の自己評価は独自の項目も作成されており適切であると評価できる。常に改善を心がけて、業界ニーズに合わせたカリキュラム作りや学生対応を行っているだけでなく、オンライン授業実施や最新の3D CAD導入、SNS活用など急激な時代変化の中で、学校の質向上を目指すべく真摯に対応していると感じた。コロナ禍では職業教育の必要性や実施方法などが問われたが、今後はこの変化をどうつかんでいくかが非常に重要な課題となる。中でも、学校では人材育成が何よりも大切である。技術や知識だけでは豊かな人間、社会人とはいえなく、自分で考えること、考える力を身に着けていることが重要である。今後も社会情勢や業界ニーズを感じ取りながら、ぜひそういった内面の部分も磨かれた人物を養成する学校であることを期待する。

織田ファッション専門学校
学校関係者評価委員会